

診療情報使用に関するお知らせ

『研究課題名　局所陰圧閉鎖療法における間欠モードの治療効果の検討』

【研究の背景および目的】

局所陰圧閉鎖療法(Negative Pressure Wound Therapy;NPWT)は、創傷面に局所的に管理された陰圧をかけることで、創縁を引き寄せ、過剰な浸出液および感染性老廃物の除去を図り、肉芽組織の形成を促進させるシステムです。これまで持続陰圧管理による NPWT が主流でしたが、近年、間欠陰圧管理の方が肉芽形成を促進するとの報告がなされています。間欠モードを搭載した RENASYS TOUCH® 陰圧維持管理装置(以下 RENASYS TOUCH、Smith&Nephew 社)は 2018 年 7 月より医療承認を受け、当院でも同システムを導入しています。しかしながら、これまでに肉芽形成を促進する吸引圧や吸引時間などの統一された見解やガイドラインはありません。

そこで、東邦大学医療センター大森病院形成外科では、過去に RENASYS TOUCH を使用した症例を後方視的に調査し、難治性創傷に対する本システムの適切な使用法を検討することを目的とし、本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、RENASYS TOUCH の適切な使用による肉芽形成の促進や、それに伴う治療期間の短縮につながるを考えます。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2018 年 7 月～2024 年 4 月までに東邦大学医療センター大森病院形成外科において、RENASYS TOUCH を治療に使用した症例を対象とします。

診療録(カルテ)から抽出した創治癒の経過や、手術成績、合併症を解析し、肉芽形成に適した RENASYS TOUCH のパラメーター値(吸引圧、吸引時間、圧勾配)や使用期間を調査します。今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

形成外科

職位・氏名 教授：荻野晶弘

電話 03-3762-4151 内線 77625